

JAグループ神奈川TAC・担い手担当者パワーアップ大会 優良事例発表3人を表彰

農産総合課は、県内のTAC・担い手訪問活動の優良事例や課題を共有し、相互研さんを図ることを目的に2月26日、「JAグループ神奈川TAC・担い手担当者パワーアップ大会」を厚木市内で開催した。会場にはJA職員、県連合会職員など、約130人が集まった。

発表では県内JA・連合会より選ばれたTAC・担い手担当者10人が登壇した。それぞれ訪問活動によって気付いた課題、解決策を模索する過程、その成果を力強くアピールした。

「TACの訪問活動に取り組む姿勢」や「担い手の課題に沿った提案内容」、「地域生産振興への反映」などを厳正に審査した結果、「世界初ピーマン革命」を発表したJA湘南・濱端興樹氏、「堆肥で収益確保！牛糞堆肥の高付加価値化による地域循環型農業の実現に向けて」を発表したJAよこすか葉山・安藤秋徒氏、「農業を魅力ある産業にするための挑戦！！～いちご生産者×JA×プロスポーツチーム三位一体となった新たな取り組みによる化学反応～」を発表したJAセレサ川崎・角田良介氏の3人が最高賞のTAC表彰に輝いた。

審査を務めたJA神奈川県中央会 青木哲也農業くらし対策部長は、「いずれの発表も地域の課題を的確にとらえた上で、自分に何ができるかを考え、提案し、解決を図っていく取り組みであると感じた。それぞれ大変素晴らしいもので、今後のTAC活動に多くの示唆を与えるものであった」と講評。平本光男運営委員会会長は「TAC・担い手担当者は農家手取りの最大化、生産振興による地域活性化、JA経営基盤の確立などJAグループを取り巻く課題の解決に向け最前線で活躍している。今回の発表や今後の活動に期待したい」とコメントした。



発表要旨

JA湘南・濱端興樹氏	JAよこすか葉山・安藤秋徒氏	JAセレサ川崎・角田良介氏
世界初ピーマン革命	堆肥で収益確保！牛糞堆肥の高付加価値化による地域循環型農業の実現に向けて	農業を魅力ある産業にするための挑戦！！～いちご生産者×JA×プロスポーツチーム三位一体となった新たな取り組みによる化学反応～
近年、他産地の作付面積の増加に伴い、春トマトの市場出荷価格の低迷が続いている。管内のトマト農家からも市場価格低迷により経営状況（売り上げ）が毎年落ちていくとの相談を受け、春トマトに代わる代替品目（種無しピーマン）の作付提案を行った。5人に作付けを提案し栽培指導や販売まで手がけ、世界初の種無しピーマン出荷組合を立ち上げるまでに至った。 栽培も順調であり、加えて種苗代のコスト削減の観点から年1回の定植に切り替え、切り戻し栽培を確立した。 またJA神奈川県信連と連携し、生産者1人を対象とした事業性評価を実施し、経営状態を把握することで、新たな提案やアドバイスを行うことができた。	TAC訪問先であるA牧場にて、①堆肥が売れない②堆肥になるまでの期間もかかるとの相談を受けた。堆肥の利用はペレット堆肥や堆肥混合肥料の台頭により減少傾向にある。発酵期間の短縮を狙い畜産系会社の高額な腐熟促進剤Bを利用しているが効果が見られない。そこで堆肥の発酵期間短縮と付加価値化による需要増を狙い、畑作向けに回収している残さ処理剤Cを堆肥の腐熟促進に利用してはどうかと提案を行った。結果、腐熟期間を4週に短縮、経費を年間40万円超削減、また需要増が見込めた。今後は他の畜産農家への提案を行い、管内での堆肥の利用度を上げる。また堆肥→作物→加工→エコフィードの地域循環を目指す。	「かわさきいちご」はいちご狩りや個人直売所で人気のブランドである一方、販路開拓・顧客創出といった消費者へのプロモーションを含む生産者への支援策について課題を抱えていた。そこで、地元プロサッカーチームの川崎フロンターレと連携したスタンプラリーや、セレスアモスへの出荷数増加と農業所得の向上を目的としたフェアを開催した。また、これらをきっかけに川崎フロンターレ、川崎ブレイブサンダース、NECレッドロケッツといった競技を越えたプロスポーツチームとのシールラリーも開催した。今後も商業・教育・福祉などの多様な主体との連携をさらに進め、市内農業や市内産農産物への社会的な価値向上を通じた、農業所得の向上や農業生産の拡大を目指す。



生産者と実需者をつなぐ商談会 神奈川農業が生み出す多様な品目がバイヤーをお出迎え

かながわ農林水産品マッチング商談会2024

2月6日、JAグループ神奈川と神奈川県が共催する「かながわ農林水産品マッチング商談会2024」が横浜市技能文化会館で行われた。生産者やJAなど34団体が出展（HP上のみ出展含む）、県産の農畜水産物やその加工品100品目をバイヤーにアピールした。

今回で7回目を迎えた同商談会は、県内の農業生産者や加工事業者と、県内実需者を結ぶことで、地産地消の推進や農家の所得向上を目的に行われている。

事前に商談予約を受け付け、当日は小売業者やホテルなど21社が来場した。飛び込みでの商談のセッティングも多く見られ、出展者は自慢の商品について試食を交えつつ魅力を伝えた。実需者からも商品の特徴や旬の時期について質問をして情報交換を行った。



第18回JAグループ国産農畜産物商談会

2月28日・29日の期間、「第18回JAグループ国産農畜産物商談会」が東京都立産業貿易センター浜松町館にて行われた。全国各地のJA、農業法人などの団体が出展し、JA全農かながわは湘南ゴールドや早春キャベツ、やまゆり牛など神奈川ならではの多様な特産品約30品目をバイヤーにアピールした。

本商談会はJA全農・JAバンクが主催、農林水産省が後援しており、両日併せて1,818人の来場者数を記録した。JA全農かながわは大型のブースを設け、目を引く色とりどりののぼりを配置。多くのバイヤーを出迎えた。また、事前予約制の商談や試食も実施され、出展者とバイヤーの会話も盛り上がりを見せた。



タレント・VTuber根本凧さんがYouTubeで JAはだの冷凍ゆで落花生「うでピー」を紹介！

2月20日より、JAはだのが製造・販売する冷凍ゆで落花生「うでピー」がJA全農の産地直送通販サイト「JAタウン」で販売されている。同商品はJA農産物直売所「はだのじばさんず」やふるさと納税の返礼品で購入・入手可能だったが、通販サイトへの進出は初めて。国内のどこからでもその味わいを楽しむことが可能となった。

「うでピー」は、地元の農家がおやつとして食べていた塩ゆでの落花生を1989年に同JAが商品化。秦野市は県内生産量1位を誇る落花生の産地であり、掘りたてを新鮮うちに加工するため、濃厚なうま味と香りを楽しめる。ゆでることを「うでる」という同市の方言から「うでピー」と名付けられ、35年にわたり地域住民に愛されてきた。

販売開始に当たり、JAタウン公式YouTubeチャンネル内「根本凧のお名刺交換させてください！」で「うでピー」を特集。JAタウン公式応援大使を務めるタレント・VTuberの根本凧さんが「はだのじばさんず」を訪れ、商品の魅力をレポートした。

特集動画は同チャンネルで公開中。北原慶徳店長は「うでピーの魅力为全国の方たちに味わってもらえるようになり、うれしい。根本さんの力も借りて、地域へ受け継がれてきた味を若い人たちにも伝えていけたら」と意気込みを話した。



秦野総合工場 乾麺製造終了のお知らせ

秦野総合工場は令和6年3月末をもって製造を終了いたしました。同工場は1938年創業、1961年に乾麺加工事業を開始し、現在の乾麺工場は1991年に稼働しました。以降、全農直営で唯一の乾麺工場として、地粉や国産原料、「名水百選」に選ばれた秦野市内の良質な水を使用した製品を作り続けてまいりました。

「エコープ丸細うどん」は製造委託先を選定し販売を継続しますが、他商品は在庫限りで終売となります。長きにわたり秦野総合工場ならびに製造商品をご愛顧いただき、ありがとうございました。

